

英米文化学会会報 第26号

SES NEWSLETTER

No. 26



英米文化学会第90回例会のお知らせ

標記の例会を下記の要領で開催します。

開催月日：平成8年3月9日（土）

場 所：日本大学歯学部3号館（お茶の水ニコライ堂隣）

時 間：15:00-17:00 受付14:30

懇親会：於 ビッグ・パンお茶の水店（千代田区駿河台2-1-2 深井ビル2F 電話 3295-0544）

会費 5,000円

研究発表タイトルと司会者

1. プレゼンテーションの技法

発表者 高崎栄一郎（日本大学）

司 会 須田 理恵（日本大学）

2. G. オーウェルと1940年代の『トリビューン』紙

発表者 相良 英明（鶴見大学）

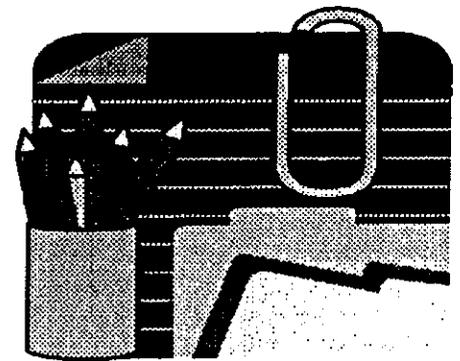
司 会 吉田 俊実（中央大学）

特別発表

演題：英語教員とインターネット

発表者 佐藤 治夫（日本大学）

紹介者 高取 清（文京女子短期大学）



第14回人会および研究発表者募集のお知らせ

第14回大会は以下の通り開催されます。3ページにも関連記事があります。

年月日：平成8年8月23日（金）-24日（土）

場 所：長野清泉女子短期大学

講演・研究会 - (時事英語)

この大会の発表者を下記要領にて募集いたしますのでお申し込みください。

発表申込先：曾村充利先生 〒165 東京都中野区鷺宮4-25-12

発表希望者氏名、所属（勤務先）、研究発表題名を明記の上、400字程度の発表要旨を添えて封書でお申し込みください。締切は4月18日です。なお、発表時間は30分です。

財務担当より

財務で、3年ごとに会費納入についての調査をしております。今年度はその時期にあたりますので、現在、会費未納者には納入のお願いを、財務の方から連絡しております。連絡がありましたら、宜しく願いいたします。（財務担当理事石川 郁二）

書評

『(人物書誌大系32) ジョージ・オーウェル』大石健太郎・相良英明編著 紀伊国屋書店、1995年 ¥13,800

英米文化学会会長 名和雄次郎

本学会理事の相良先生が、オーウェル研究には必携の書を上梓されました。オーウェルに関するわが国の論文、評論、翻訳等を分類した文献総目録です。論文2編、著作一覧等も含まれています。莫大な時間を注ぎ込まれたことと拝察します。

第90回例会研究発表レジメ

1. プレゼンテーションの技法

高崎栄一郎

英語によるプレゼンテーションのニーズが高まりつつある。プレゼンテーション教育は、単なる和文英訳から、自己表現と説得性のある作文への脱皮を促すためにも効果がある。プレゼンテーション教育では、パラグラフ構成を重視すべきである。

本発表では、プレゼンテーション理論とその基礎となるパラグラフ理論の概要を報告する。また、学習者が作成したプレゼンテーション原稿の実例を紹介する。

2. G. オーウェルと1940年代の『トリビューン』紙

相良 英明

George Orwell は、1943年11月末から中断を含んで1946年11月まで、イギリスの左翼系週刊新聞(タブロイド判24頁)『トリビューン(Tribune)』に"As I Please"というコラムを執筆していた。のみならず、"As I Please"を他の執筆者に任せているときは、しばしばショート・エッセイを寄稿している。

従来、一般的にはオーウェルのエッセイや"As I Please"などのコラムの原稿は、*The Collected Essays, Journalism and Letters of George Orwell* という4冊本のエッセイ全集にほぼ全て収録されていると思われていた。しかし、当時の *Tribune* (マイクロフィルム版) を改めて調べてみると、数多くの未収録エッセイを新たに発見することができた。さらにオーウェルのコラムに対する当時の読者の投書や、それに対するオーウェルの反論など興味深い原稿も発見できた。

今回は、この未収録原稿や、『トリビューン』編集者とオーウェルの確執など、オーウェルと1940年代『トリビューン』にかかわる問題について発表したい。

特別発表レジメ

英語教員とインターネット

佐藤 治夫

インターネットの歴史について触れ、研究用のネットワークと商用データベース・ネットワークが接続された発展形としての解釈を示し、英語研究者、英語教育関係者にとっての有効性を論じる。発表中は、会場中に設置した機器により、例としてリアルタイムで世界各国の英語のページに接続する。また、英米文化学会の将来の施策の一部として予想される、ネット上での学会運営について触れる。

分科会活動状況報告

第一分科会と第二分科会は出版を計画していましたが、次のような条件で理事会で承認されました。

(a) 第一分科会の出版計画に関して

(1) タイトル『たたかう性—英米文学作品に見られるヒロインたち』(仮)

(2) 一葉社

(3) 250ページ/ハードカバー、帯付き/定価2,000円/初版2,000部/印税7%/読者対象=英米文学科の学部生

なお、印税は学会へ入れる

- (4) 英米文化学会は300部買い取る
- (5) 平成8年11月末刊行(完全原稿締切平成8年7月末)
- (6) 執筆者 吉田(第一分科会代表)、高取、須田、佐久田、相良、君塚、五味田
執筆者枚数 一人60枚から70枚(1枚400字)
執筆者自己負担 一人4万円

(b) 第二分科会の翻訳計画に関して

- (1) タイトル『現代アメリカ小説』(The Modern American Novel by M. Bradburry, O. U. P. の翻訳)
- (2) 彩流社
- (3) ハードカバー、縦書き/定価2,000円/初版2,000部/印税~~10%~~ ^{8%} (7%)
なお、印税は学会へ入れる
- (4) 著作権(前払印税)は彩流社と英米文化学会とで半分支払う
- (5) 英米文化学会は300部買い取る
- (6) 平成8年9月初旬刊行(完全原稿締切平成8年6月末)
- (7) 翻訳者 佐藤(成)(第二分科会代表)、高取、上野、相良、君塚、宍戸、五味田
翻訳者自己負担 一人6万円

あとは、原稿の質と原稿の締切だけが問題かと思っております。

(分科会理事 五味田幸夫)

事務局より

<平成8年度大会速報>

平成8年度の大会は、長野県長野市の長野清泉女子短期大学にて8月23日-24日に開催されることになりました。付近には観光などに適した名所 旧跡が多いので(?)、学会としての宿泊申込みは、8月23日の1泊分のみとなりますので ご注意ください。今回は東京から日帰りも可能な土地での開催となりますので、多数のご発表・ご参加をお待ちします。

<学会創立三十周年について>

来年で英米文化学会は創立三十周年を迎える事となりました。平成8年度は三十周年の記念行事などを計画・準備中です。学会からのお知らせに今年は特にご注意ください。

<会員による出版>

- 1、『レナード・ファインバーグ ユーモアの秘密』
勝浦吉雄ほか訳 文化書房博文社 ¥2,884
- 2、『ソートン・ファイルダー戯曲集』2と3
水谷八也訳 新樹社 2が¥1,800 3が¥2,000
- 3、『英米—歴史と文化』
大島良行著 洛陽社 ¥1,200
- 4、『(人物書誌大系32) ジョージ・オーウェル』
大石健太郎・相良英明編著 紀伊国屋書店、1995年 ¥13,800

<インターネットに関して>

当学会員のほとんどがインターネットについての報道をご存じのことと思います。もともとインターネットは研究目的に構築された大型電算機を結び付けたことから始まったものです。ですからインターネットには世界の大学研究機関ならびに図書館の情報サービス部門が接続されております。一部の紹介記事ではその経緯を省略して、民生向けの接続先のみを面白おかしく紹介するものがあるために、研究とは無縁のもの

思われた方もあるやにうかがっております。

現在の日本の人文科学系列の諸分野の中で、最も電算機の導入率の低い、文学語学研究分野の研究者の多い当学会の、電算機普及率の低さを打開すべく、当学会では会員の皆様のためのインターネット接続のお手伝いをする事になりました。

具体的には次の二種類のサービスを学会として提供する予定です。

- 1) 現在コンピュータを使用中でインターネットに接続を希望する会員
- 2) 現在コンピュータを使用していないが、'コンピュータシステムの購入、ならびにインターネットへの接続を希望する会員
 - 1) に該当する会員へのサービス (Mac, DOS/V, PC98 など)
 - 1 使用中の機器での接続の可能性のチェック
 - 2 サービスプロバイダへの申込み手続き代行または援助
 - 3 ソフト起動援助
 - 4 周辺接続機器 (モデムなど) ・ソフトウェア購入の具体的指示
 - 5 使用に当たっての講習
 - 2) に該当する会員へのサービス
 - 1 現在の環境での接続の可能性のチェック
 - 2 サービスプロバイダへの申込み手続き代行または援助
 - 3 英米文化学会会員専用特別キット購入への助言・具体的指示
 - 4 使用に当たっての講習

この特別キットは、日立ソフト株式会社並びに秋葉原では知らぬ者としてない株式会社ぶらっとホームのご協力を得て販売されるパソコンキットです。

詳細は別便にてお知らせしますが、当座は、現在使用中のワープロ専用機を買いかえるご予定の会員ならびに電算機 (パソコン) を導入ご予定の方は、少々お待ちいただければ英米文化学会会員専用パソコンセット (モデム等込み) を準備してもらっていますので、巷で言う「すぐ使えるパソコン (インターネットへの接続を含む)」ですぐ使えた試しがないのですが、本当に即座に接続していただけるものを準備していただけます (念のため申し添えますが、会員がコンピュータセットを購入しても当学会には利益はゼロです)。

現在、英米文化学会のホームページをインターネット上某所に準備中です。完成すると、電算機を使っての新規入会申込み、会員への各種サービス、即時性の高い学会学術情報の公開などが実現します。将来的には論文の投稿、掲載もネット上となることも予想されております。

勤務先が LAN (ローカルエリアネットワーク) を導入済みの会員は、メールアドレス確認のため、shakey23@st.rim.or.jp まで E-mail を発信してください。以後の連絡などで使用することになるかと思われれます。(余談ですが、2分以内に相手のメールボックスに届く E-mail に対して、通常の regular mail を、ゆっくり移動する渦牛 (かたつむり) snail をもじって、S-mail という言い方も散見するようです。)

インターネットの内容、教育への応用の可能性については3月の例会にて、小生 (佐藤治夫) のインターネットの紹介発表をお聞きください。当日は日立ソフト、ぶらっとホームからの派遣社員のデモンストレーションも予定しております。文学はもとより、ネット上の英語教育関連ページなどへの言及もあり、ほとんどの会員の研究ニーズに応じた内容を網羅していると思います。(事務局長佐藤治夫)

英米文化学会会報 第26号 編集・発行: 英米文化学会編集委員会—池田 広子、小川 喜正、

岸山 睦、武井 朗子、中村 豪、宮崎 敬子、山根 正弘

発行責任者: 中村 豪 〒